



『トクシマ・アンツアイガー』

第 14 号

徳島 1915 年 7 月 4 日

われわれの植民地（1）

「セダンの勝利とヴェルサイユにおける皇帝の即位¹は、ドイツ史における二つの偉大な瞬間であった。しかし、この二つの出来事の最高の価値は、ドイツが統一して国民国家になったということにあるのではない。むしろ、それによって統一の結果として、世界の運命を決める諸民族の競争への道が、遅すぎないうちにわれわれに開かれたということにあるのだ。」

ロールバッハは、『世界におけるドイツの思想』の中で次のように述べている。

「世界の運命への影響において植民地の獲得ということが問題になるか

1 普仏戦争（1870-71）でプロイセン軍は、セダンにおいてフランス皇帝ナポレオン三世を降伏させて捕え、パリを占領し、プロイセン国王がヴェルサイユ宮殿において皇帝ヴィルヘルム一世となり、ドイツ統一が完成した

ぎり、われわれは残念ながら、ドイツがこの点で出遅れたと認めざるをえない。ドイツが植民地獲得に乗り出したとき、世界はすでに分割されていた、というのはよく言われることである。イギリス、ロシア、フランスの所有する植民地と比較すれば、われわれの植民地帝国は非常につましいものだ。イギリスの植民地の面積は 3,000 万平方キロメートル、ロシアは 1,700 万、フランスは 1,100 万、そしてドイツの植民地はわずか 260 万平方キロメートルである。これはドイツ帝国の 5 倍の面積である。小国のベルギー、ポルトガル、オランダの海外所有地の広さは、われわれとほぼ同じである。

帝国植民省長官ザルプ博士は、1 月のはじめ、新聞記者にこう説明した。「われわれの植民地の将来については、もちろんまだ何も言えないが、ひとつのことだけは確かだ。それは、無敵のドイツが、これまで植民地政策において歩んできた道を今後も歩み続ける、ということである。」

今ひとたび、われわれの植民地を地理的な観点から眺めてみよう。これらの植民地の経済的意義については、これ以降の号でいずれ検討することができよう。

まずは最も重要なわれわれのアフリカ植民地を、次に南太平洋の領土を見ることにしよう。

われわれの最大にして最も人口の多い領土は、ドイツ領東アフリカで、その面積はドイツの二倍になる。北限はほぼ赤道上にあり、われわれの領土はインド洋の海岸から中央アフリカのいくつかの大きな湖にまで及んでいる。

海岸はすべて平坦で、真の良港は少ない。政庁の所在地はダルエスサラームであるが、ここは同時に東アフリカで最も重要な商業都市である。海岸の前にある重要なザンジバル島は、1890 年以降イギリス領になっている。ここは、ヘルゴラント島との交換地のひとつであった²。

2 1890 年、ドイツはザンジバル島を中心とする地方の権益とイギリス領でドイツ本国に近い北海の小島ヘルゴラントを交換した。

気候は熱帯性であるから、東アフリカは白人の入植地としては論外だが、ここではすでにプランテーション経営がかなりの規模で発達している。この農場では、主としてとうもろこしや米、綿花、生ゴム、サイザル麻（織物の原料）が栽培されている。

細長く平坦な海岸地帯の背後では周辺山地が隆起している。この植民地の大部分は東アフリカ高原の一部であるが、この高原のかなりの地域は非常に雨が少なく、ステップ植生となっている。

すでに何本かの鉄道が内陸部に至っており、われわれの最上の植民地と言えるこの非常に有望な植民地の開発に大きく寄与している。

われわれの所有地で二番目に大きいのは、ドイツ領南西アフリカである。ここはドイツの約 1.5 倍の広さがあるが、人口は 17 万人しかいない。

この領土は南回帰線の両側に広がっており、亜熱帯性の健康によい気候のため、白人の入植は可能である。

海岸地帯の自然はひどく恵まれていない。港としてやや使えそうなのは、リュウディッツ湾とスヴァコス河口だけである。政庁の所在地はヴィントフークで、ここは内陸部に 300km 入ったところにあるが、スヴァコス河口と鉄道で結ばれている。鉄道網は、この植民地の人口密度が非常に低いため、当然のことながらきわめてまばらである。ただ、近年の大反乱³のあいだに拡張が推し進められたが、平時であればこうはいかなかっただろう。

この地方は非常に降水量が少ないので、ほとんどの土地は耕作には使用できない。しかし、ステップには、わずかながらもかなり栄養になる草が生えており、これが牛や羊のすぐれた飼料となっている。

それゆえ、この植民地の農産物は主として家畜の飼育に使われるであろう。このような方向での開発が、すでに大々的に開始されている。

若干の銅鉱床からは、すでに採鉱がおこなわれている。近年、リュウディッツ湾の近くで大量の良質なダイヤモンドが発見された。このことは、

3 ヘレロ戦争（1904）。ドイツ領南西アフリカのヘレロ族が反乱をおこし、ドイツ軍は多くの損害を受けながらこれを鎮圧した。

この植民地が本国からの経済的自立を高めるのに大いに役立った。

日本の歴史（13）

イエズス会士フランシスコ・サビエルの最初の来訪（1549年）以来、日本にはキリスト教が急速に広まっていた。信長は、キリスト教を非常に優遇したが、それは強大で反抗的な仏教寺院に対抗する歓迎すべき助力をキリスト教に見出したからである。こうして彼は、キリスト教徒の中心教会である京都の南蛮寺を定期的な資金援助をおこなった。最初のキリスト教徒のほとんどは九州にいた。ここにはキリスト教に改宗する幾人かの大名さえいた。1582年、豊後の大名有馬と大村は教皇に使節を派遣した。彼らは危険な旅を経て1583年にポルトガルに到着し、いたるところで並々ならぬ賞賛を浴びた。1590年によく彼らは故郷に帰り着いた。秀吉は、キリスト教に極度の不信感を抱いた。はじめは好意的であったが、その後1590年に、すべての外国人司祭は日本を去るべしとする命令を出した。この命令の実行は、はじめ特に監視されることもなかった。そのためこの命令はまもなく忘れられ、以前にも増して熱心な布教活動が始まった。そこで、突然1597年の命令によって、長崎の幾人ものキリスト教徒が、禁じられた異教を広めたとして処刑された。いずれにせよ秀吉は、キリスト教が日本の独立にとって危険であると思っていた。それは、宣教師たちが征服をもくろむスペイン・ポルトガルの世界帝国とさかんに連絡を取り合っていたからである。それゆえ秀吉は、キリスト教を弾圧しなければならないと考えたのである。

家康は、秀吉の命令を廃止しなかったが、はじめは自分が熱心に育成した外国貿易への司祭たちの影響を考慮して、彼らの布教活動を励ました。しかし、イエズス会、フランシスコ修道会、アウグスティヌス修道会など、布教に当たった教団がたがいに告発し合い、伝道の熱意を持つ聖職者を伴

わないイギリス人やオランダ人が現れ、将軍に仕えていたキリスト教徒の官吏がいなくなると、家康の心にも秀吉と同様の不信感がしだいに沸き起こっていったのであろう。1614年、キリスト教は国にとって危険な教えとして禁止され、外国人司祭は追放された。禁令にもかかわらず、一部の司祭はこの国にとどまり、また商人に変装して入国を試みる者もいた。日本人のキリスト教徒に対するきびしい迫害により、1637年に深刻な反乱が九州の長崎の東で起こった。この反乱の鎮圧後、幕府は、新たにいっそうきびしい措置が必要であると考えた。外国との貿易は禁止され、すべての外国人商人は日本から追い払われた。宣教をおこなわなかったオランダ人だけが、長崎港内の人工的に作られた出島で、なおも貿易を許された。日本人たち自身は、大型の渡洋船の建造を禁じられ、国を出ることは死罪をもって禁じられた。外国に滞在していた者たちは、帰国を許されなかった。日本人のキリスト教徒は非常に残虐な迫害を受けた。キリスト教を禁止し、キリスト教徒の告発には多額の報酬を約束する大きな立て札がいたるところに立てられた。役所は、あらゆる家族がいずれかの仏教宗派に所属していることを証明するよう監視しなければならなかった。長崎周辺では、すべての住民が一年に一度、木の枠にはめられたキリストや聖人たちの金属製の像を足で踏んで、キリスト教徒でない証しを立てなければならなかった。

つづく

日本の農業（1）

農業は日本では非常に尊重された重要な位置を占めている。民衆階級の中では、昔から農民階級は上位にあった。手工業を営むことがきびしく禁じられている優遇された戦士階級である侍でさえ、みずから畑を耕すことで威厳が損なわれるとは考えていなかった。

日本でもこのところ商業や工業の繁栄によって、経済的状況は著しく変わってきたが、それにもかかわらず、農業は今日もなお、国家の繁栄の重要な基礎である。1891年の人口統計でわかった780万世帯のうち、250万世帯が、農業を本業としており、200万世帯がこれを副業としている。それゆえ、日本国民の大部分が、農業によって暮らしを立てていると断言してよいだろう。

気候が温暖なので、耕地の大部分では一年に複数回の収穫ができる。日本の農業は比較的多くの人を養うことができるが、その理由のひとつは、個々の田畑は非常に狭いものの、きわめて集約的に耕作されているということである。

もっとも牧畜は、日本の土地経営のあまり重要な部門ではない。その主な理由は、おそらく東アジアの自然が菜食という生活方法により適しているということであろう。さらに日本人は、生産力の高い土地があまりないので、中国人と同じように、肥えた土地をもっぱら耕作に活用するように指示されていた。それで、発展しかかった牧畜に必要な広い牧草地のための土地は、もう残っていなかった。農業経営の方法は、今のところ昔と比べてまだあまり変わっていない。日本の農民は、世界中の農民と同様、きわめて保守的で、つまり古いしきたりにしがみついている。農作物の作り方はというと、父親から習った方法や祖父や曾祖父がやっていた方法と、まったく同じなのである。

日本では、ほとんどすべての耕作はまだ人力でおこなわれており、牛馬が使われることはきわめてまれである。だから、本式の犁（すき）よりもむしろ手鋤（てすき）や鍬が用いられている。地面をすき返したり整えたりするには、筆舌に尽くしがたい苦心と労働が費やされる。農夫は、単純で不恰好な農具を使ったこのような苦労によってのみ、作物を植えた畑が固くならず、雑草もほとんど生えないようにし、またすべての畑を庭の花壇のようにきれいに見せることができるのである。

日本の農業とわれわれの農業との最大の相違点は、肥料のやり方である。

わずかな牛馬から得られる肥やしは、土地の生産力を回復させるにはまったく不十分である。だから、中国におけるのと同様、ありとあらゆる糞やごみを入念に集めて畑に供給するのが当然のこととなる。このことはとりわけ人糞にも当てはまる。これ以外にもきわめて多種多様な肥料が使われている。例えば森の落ち葉、緑のままの草やそれを焼いた灰、油粕、骨を焼いた灰などである。特に言及すべきものとして魚粉もある。日本近海では魚が非常に豊富に獲れ、住民たちが食べ尽くすことはできないほどであるから、残った分は肥料に加工されている。すべての加工肥料の中では、魚粉が最も価値があり、また一番普及している。

つづく

ニュースと中立性の信憑性

『華徳日報』に次のような一節があった。

『ニューヨーク・ストリートジャーナル』にはこう書かれている。読者のためにわれわれは、目下の状況において緊急に必要な二つの表を専門家に作成してもらった。

ひとつの表は戦争報道の信憑性の評価のために、またもうひとつの表は中立国の厳正さの評価のために、役立ててもらいたい。二つの表は、読者が価値あるものを無価値なものから選別しやすくするためのものである。種々の新聞に今載っている情報は、さまざまな情報源からのものだ。これらの情報源の信頼性を、底意のない同時代人はほとんど確かめることができない。そしてこれらの情報源について—その確実性と正確さが編集部によって保証されているとしても—読者は疑念から逃れられないのである。ここに示したパーセンテージの表を手がかりにすれば、あらゆる情報の信憑性がすぐわかるだろう。例えば以下の報道機関のまやかしのない本当の真実度は、次のようなものだ。

セイヴィル無線通信 ⁴	100%
ストックホルムの情報提供者	75%
ロッテルダムの情報提供者	50%
フランス軍総司令部報告	45%
ロシア軍総司令部報告	20%
『タイムズ』特別有線通信	10%
マーテン報道 ⁵	8%
ベルギーの目撃者	5%
ニッシュへの報告	4%
前線から	3%
あるアメリカ人靴屋の妻	2%
シリアのフランス人エージェント	1%
アヴァ報道 ⁶	0.5%
ロイター報道	0%

これで読者は、それぞれの報道をどこまで信じてよいか、間違いようのない確実さで知ることができるだろう。第二の表によって、各国が請け合っている中立性の評価が同様に容易なものとなる。このことは、「中立」なる言葉が一般に濫用されているだけに、非常に重要である。行為によって証明された真の誠実な公平性という点での中立性のパーセンテージは、以下の通りである。

スイス	100%
スウェーデン	95%
ブルガリア	90%

4 セイヴィル (Sayville) はニューヨーク市内の地名で、ここにドイツ系の無線通信社があった。

5 Maten はオランダの都市

6 Havas フランスの有力通信社

ギリシャ	80%
ノルウェー	70%
スペイン	70%
デンマーク	51%
チリ	50%
イタリア	49% (? 編集部)
ルーマニア	48%
オランダ	1%
アメリカ	0%
ベルギー	-100%

ここに挙げた分を差し引いた各国の「中立性」の中身は何だろうか。それは、偽善、打算、利欲、憎悪、羨望、愚劣、言葉の羅列、つまり空虚な言葉である。・・・こうしたものが入り混じっているからこそ、われわれは読者のためにこれらの表を作成したのである。それぞれの中立国の評価にさいして、正確な情報を読者に得てもらうためである。

この戦争におけるスイスの慈善事業

交戦中の諸国民がスイスに多大の感謝をしなければならないということが、1915年4月17日の週のある論説に書かれていた。読者もまた、スイスの慈善事業のことを知りたがっているだろうと思う。とりわけ、日本にいる戦争捕虜とその家族たちにも、スイス郵便の戦争捕虜へのサービスによって多大の慈善的奉仕がなされてきたし、またこれからもなされるであろうから。

捕虜の数が増えると、赤十字はジュネーヴに戦争捕虜のための代理事務所を設置したが、政府任命の特別委員がその管理を引き受けた。この事務

所は、捕虜とその家族たちの間を取りつぐ業務をおこなうことだけを任務としている。援助を惜しまないあらゆる年齢や地位の男女が、群をなしてやってきた。今では 1,200 人が、代理事務所の常勤職に就いている。そのうちの 150 人だけが報酬をもらっており、他のすべての人々は、献身的なボランティアなのである。毎日 4 万件までの問い合わせが寄せられ、2 万以上の返答を出すことができている。

これよりもずっと小規模なものではあるが、バーゼルでは戦争によって抑留された市民のための援助機関が設けられている。そこでは、不運で何の罪もない戦争の被害者たちへの配慮がなされているが、彼らを戦争捕虜と混同してはならないのは当然のことである。

ベルンにある一般人抑留者の帰国促進のための事務所は、大規模で立派なスイス国立の機関である。この事務所は、交戦中の国々から帰国させるべき人々のリストを受け取っている。回覧状が発送され、何千もの問い合わせに回答が出され、抑留者と家族たちを結ぶ郵便が仲介されている。さらに帰国の日がやってくると、事務所は国境の特定の場所で帰国する人々を引き取り、移送の間は人を付き添わせ、世話をさせるよう計らうのである。抑留者用列車の乗客たちは、スイスを通過する間、私的な慈善行為による贈り物をたくさんもらう。3 月のはじめまでにこの事務所の仲介によって帰国を果たした人々の数は、フランス人 10,850、ドイツ人 7,630、オーストリア・ハンガリー人 1,917、合計 20,450 名にのぼる。この事務所の仕事も、また抑留者のためになされるすべてのことも、完全に無償でボランティアの補助員によってなされている。

今は抑留者の移送はほとんど終わっているのだが、ドイツには、少なくとも 3 万人のいわゆる避難民がまだ残っている。それは特にベルギーとフランスの、破壊され戦火の危険にさらされた村々からやってきた人々である。この人々については、今はドイツの軍当局によって、スイス経由での帰国のための移送が準備されている。この移送はスイスの軍当局、いわゆる国民軍によってなされる。

つづく

商人のための授業

十分な受講者がいれば、来月から商人のための一連の講義がおこなわれる予定である。それは、商取引に関する諸学、例えば商法、為替法、経済学、社会学、貿易史、運輸機関、貿易地理などを扱うものである。

受講申し込みは、当紙にて受け付ける。

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 21 問の解答

1. Sg6 - f4 Kf6 - e7
2. Sf4 - d5 詰み
1. - - - - - 任意の手
2. D にて詰み

第 22 問の解答

1. Dd7 - d6 Kf7 - e8
2. Dd6 - e5 Ke8 - d7(f7)
3. e7-e8D! 詰み
1. - - - - Kf7 - g7
2. e7 - e8D! Kg7 - g7
3. Dd6 - g6 詰み

正解送付者: ベーマー、ライポルト、ラングロック、ヨーゼフ・ヴェーバー、ローデ

第 23 問 白: Kg1, Dh1, Te2, La5, c8, Bb2, c2, g3

黒: Kd4, Ld5, d6, Bb3, b7, c4, f7.

2 手詰め。

第 24 問 白: Ke7, De1, Tb5, Be4

黒: Kd4

3 手詰め。

シュピーゲル (鏡)



『トクシマ・アンツァイ
ガー』14号 (1915年
7月4日) ユーモア付
録



平和主義のジョン・ブル⁷

おれの心はいついかなるときも
名声や金銭を求めたことはない。
おれの教養、おれの道徳が、
至る所でおれの

場所をもたらす
のだ。
領土を求めた
ことは
ないぞ。

がつがつ

そんなものは
昔から
おれには
関係
ない。

ただ自由のため、
名誉のためにのみ
おれは艦隊と
陸軍をもって
戦うのだ。



⁷ イギリスのこと

♡ 求 愛 ♡

おまえにアドリア海を与えようと
三国協商がわれらの仲間を誘惑する。
おまえを勝利へと導いてやろう。
おまえ、うるわしのマカロニ国よ。

そしてイギリスは言う。おまえの金庫を
フランスの黄金で満たしてやろう。
そうすれば第二のフランの国ができ、
おれのために犠牲を払ってくれるだろう。

だからおれに従え。おれは世界の主で、
おまえにいともうわしき勝利を保証する。
おれはおまえを指揮する、おまえの大將だ。
イタリアよ、こっちについて戦え。

イタリアはイギリスの思いつきに乗って、
ほどなく思い知る事となった。
なんとみごとに、この完全なべてんで
協商側はイタリアをだましたことか。



イタリア



イギリス

読者からの問い合わせ

垣根のそばに立っているのは一体何者だ。
歩哨にしては、あまりにも間が抜けて見える。
五時に空がほんのり明けそめたかと思うと
あいつはもう立っていて、何かを見て笑う。
何がおかしいのかまったくわからない。
あいつ、パン屋の小僧だったかな。
目を皿のようにして眺めているじゃないか。
いったいどうしたんだ、あの間抜け野郎。



根が生えたみたいに突っ立ってるが、
あそこからは全然何も見えないじゃないか。
憧れに、こころの衝迫にうごかされて
通りをずっと見渡しているのだろうか。
そうかもしれないが、まずありえない。
あそこで逢引きでもするのだろうか。
ああでもない、こうでもない考える。
理由を探したとて何も見つからないのだが。
やっぱりわからないので諸君に聞こう。
何か知っていたら、すぐに教えてくれ。